

映画「ペコロスの母に会いに行く」をみて

映画「ペコロスの母に会いに行く」をみて

この映画は高齢化が猛スピードで進んでいる日本の深刻な社会問題である「介護」「認知症」をテーマにしていた。

話題作でもあり、皆さんの関心が高く、会場は満席となった。しかも昭和25年生まれの団塊世代の男の介護をつづったもので興味深かった。

その人は認知症の母が亡くなるまでの14年間、母に寄りそい、その日常の介護の日々をユーモラスにつづっていた。しみじみと優しさが伝わってくる。

親はいつでも当たり前側にいて強く守ってくれる存在ではないと気づいた時、子どもはどう向き合っていけばいいのだろうか。

私たちは幸せを願い寄り添い、大義なく日々を過ごせたらどんなに良いかと思う。みんなが行く道だが直面しないと我々の問題として考えにくい。直面しど真中に居る人も精一

杯の生活をおくっている。一人の頑張りでは乗り切れない。いろんな所で力を借り同じ仲間と共に乗り切りたい。やさしく。

理事 西井 弘子

■2月7日に開催しました人権映画会「ペコロスの母に会いに行く」に参加された方々からご協力いただきましたアンケート結果の一部をご紹介します。

「ボケることも悪いことばかりじゃない」そう思いたいものです。そう思えるのは、きつと心の持ちようですね。

50代 女性

泣いて笑ってまた泣いて感慨深い素晴らしい映画でした！人間の一生の重みをあらためておもしろいし、長崎弁のあったかい言葉に触れて、心もからだもほっかぽっか！！

50代 女性

映画ではなく他人ごとではない。いつかは自分も迎えることだと思えます。考えなくてはならないことだ！

60代 女性

認知症の方との関わり方、明るく出来たらいいけど。いざ、その場に当たると難しいと思う。心のゆとり、相手を敬う気持ちを持ち続けられるようにしたい。

60代 男性

■発達障害について知っていますか？

◎発達障害とは

発達障害は、自閉症スペクトラム障害、学習障害、注意欠如・多動性障害など、脳機能の発達に関係する障害で、その症状が通常低年齢において発現するものです。

発達障害がある方は、コミュニケーションや対人関係をつくるのが苦手なため、その行動や態度から「自分勝手」などと周囲から誤解されることも少なくありません。

◎主な発達障害には以下のようなものがあります

- ・自閉症スペクトラム障害
- ・「コミュニケーションの障害」「パターン化した行動、こだわり」などの特徴をもつ障害で、発達早

期から症状が見られます。(後になって明らかになる場合もあります。)

- ・注意欠如・多動性障害 (ADHD) 「集中できない (不注意)」「じっとしてられない (多動・多弁)」「考えるよりも先に動く (衝動的な行動)」などを特徴とする発達障害で、その特徴は通常7歳以前に現れます。
- ・学習障害 (LD)

全般的な知的発達に遅れはないのに、聞く、話す、読む、書く、計算する、推論するなどの特定の能力を学んだり、行ったりすることに著しい困難を示すさまざまな状態をいいます。

◎発達障害は、障害の種類や程度、年齢などによって現れ方は違いますが、例えば、短い文で順を追って具体的に説明したり、写真や絵などの視覚的な情報を提示して説明する等、一人一人の特徴に応じた配慮が重要です。

■人権に関するお問い合わせ

有田川町教育委員会 社会教育課

TEL 5212111

FAX 3214827